

わたしたちの上北沢 昔と今

古くて新しいまち上北沢



この道は「大化の改新」当時からあり、この地図の範囲では、多摩郡(八幡山以西)と荏原郡(上北沢以東)との境界線でもあった久我山の南側に「下本宿」という名前が残っているが、その周辺が「甲州街道」開通以前の「宿場」であった

音符と珈琲のまち上北沢

音楽に関係する人、場所が多い。「日本を代表する作曲家高田三郎先生(故人)」が住んでいらした。ピアニストのお嬢様が後を継ぐ。「松沢教会」では古楽器の演奏会も開かれた。「区民センター」もクラシックからモダン、民族楽器などの演奏会がある。桜並木の「Rinky Dink Studio」には楽器を抱えた若者が集う。商店街の「ブルーボートスタジオ」もレッスンから録音、演奏会まで手がける。地区会館向かいの「A P O音楽院」も幅広い活動を展開している。周辺も含め喫茶店が多い。

珈琲の香りと音楽の調べは素晴らしいハーモニーだ!

渋谷に発し、仙川のキューピー工場を経て、現甲州街道北側の瀧坂を経由し府中に至る甲州街道開通前は、世田谷地区の中央を通る重要道路で、「松原宿」という宿場もあった「瀧坂」は急坂の為雨が降ると瀧の様であったとか

上北沢一帯はお茶の産地だった勸業博覧会にも出品された

明治4年の学制発布の翌年に、上北沢に私学校「榎本学校」が設けられた。やがて手狭になり、この地図の左上「高井戸塾」のあった「安楽寺」の建物をここに移築して移転。明治12年に設立された、公立の「北澤小学校」に吸収されるまでこの場所にあった

50本の桜にはカルテがあり、それぞれの健康状態が記録されている

八幡山の八幡神社から分かれて赤堤の甲州街道に接続するこの道は、「瀧坂北道」または「北澤道」と呼ばれた。当時の上北沢村の中央を通る重要道路であった

明治11年に「郡区町村編成」に関する法が公布され、松原・赤堤・上北沢は「上北沢村」の名称の下に自治を行う事になり、役場は明治19年まで鈴木左内戸長の自宅門内に置かれた。明治22年6月、3村は合併し、「松澤村」となった

この地方の庄屋だった鈴木左内家のあった辺り邸内の花園、特に「牡丹園」は向島百花園と並び称されるほどのもので、江戸市中から見物人が集まるほどだった